

中部の

# エネルギーを 築いた人々

木曾谷の夜明け ~その4~

木曾発電株式会社の経緯と  
沿革史編纂委員の石川栄次郎

木曾発電株式会社は大同電力の関係会社として1932(昭和7)年に設立された。その前史は、1928(昭和3)年に伊那川電力が創立され、1925(大正14)年に創立していた信美電力を合併して木曾発電株式会社(資本金：320万円)と商号を変更して設立された会社であった。

1944(昭和19)年に発行された木曾発電株式会社の沿革史には「木曾川の上流における支流の多くは、千古斧鉞を入れざる、御料林地域を源としている関係上、水量は頗る豊富かつ地勢の関係で、河床頗る急峻なるにより本流のごとき大発電所はできないが、小規模なる優秀水利地点は各所に得られ、極めて有利に発電をなすことができる。また、自然発生電力を消費地に輸送する送電線路は木曾川に沿い数条建設せられている。

それゆえ付近に電源さえあれば、それが小規模なる発電所であっても、これらの送電線に連結せしむることにより、極めて容易にかつ経済的に、消費地に輸送することができる」と記述されている。

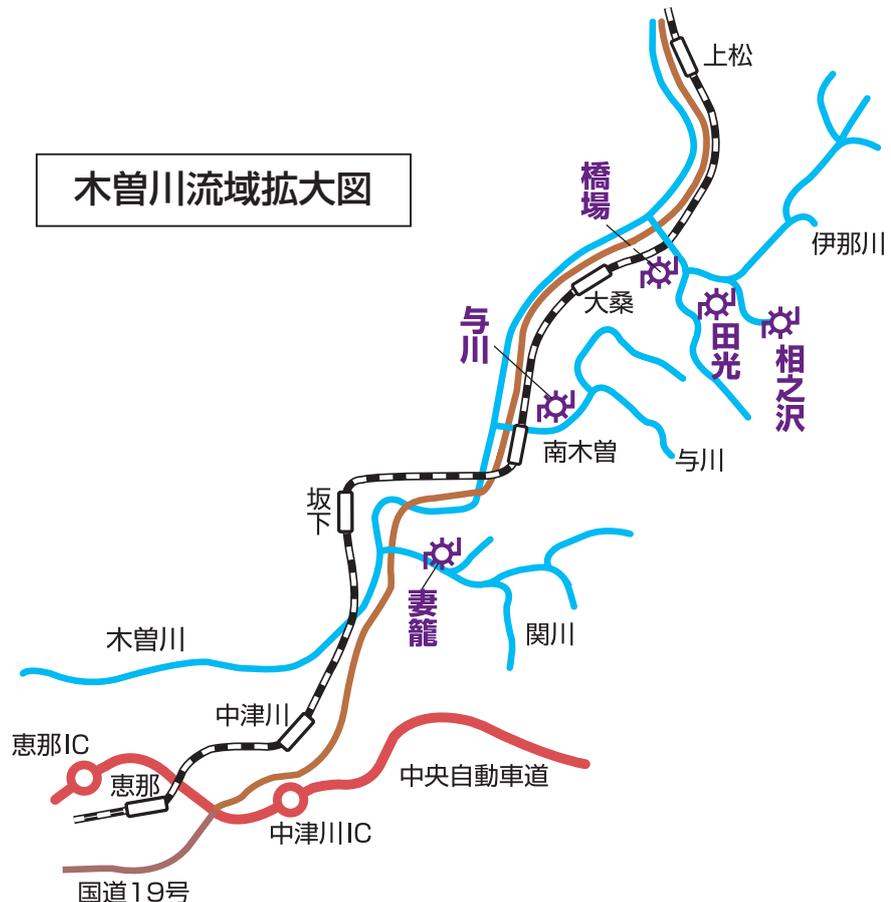
今月号は、前回紹介した下出文庫の蔵書にある木曾発電株式会社社史編纂委員石川栄次郎から下出義雄宛に贈呈されていた「木曾発電株式会社沿革史」から、各発電所の概要と石川栄次郎を紹介する。



石川栄次郎  
(1886~1959)

〔出典：木曾発電株式会社沿革史〕

## 木曾川流域拡大図



## 発電所の沿革

木曾発電は最終的に長野県南西部の木曾郡大桑村、南木曾町を流れる木曾川水系支流の伊那川(=伊奈川ともいう)、蘭川、与川に計

5カ所の発電所を建設した。  
(資料：木曾発電株式会社の沿革)

### 木曾発電株式会社の沿革

1906	明治39	中央製紙株式会社設立(取締役社長：大川平三郎) (1908＝中津工場操業開始)
1908	明治41	木曾興業株式会社設立(取締役社長：大川平三郎) (1913＝須原工場操業開始)
1917	大正6	与川発電所(大同電力が工事用電力として建設した発電所)竣工
1920	大正9	中央製紙、木曾興業を合併
1924	大正13	田光発電所(＝第2発電所)運転開始
1925	大正14	信美電力株式会社設立
1927	昭和2	与川発電所(＝第4発電所)送電開始
1928	昭和3	伊那川電力株式会社設立
1929	昭和4	橋場発電所(＝第1発電所)運転開始
1932	昭和7	伊那川電力は信美電力を合併し、商号を木曾発電株式会社に社名変更
1934	昭和9	妻籠発電所(＝第5発電所)運転開始
1938	昭和13	相之沢発電所(＝第3発電所)運転開始

#### (1) 橋場発電所(＝第一発電所)

当発電所は、1908(明治41)年に設立された木曾興業に始まる。木曾興業は伊那川下流の橋場に須原工場(＝樺太工業株式会社に合併してからは木曾工場と改名)を建設し、製紙工場の操業を始めた。そして水路から水車を直結して製紙工場の電灯電力を発電した。また、1918(大正7)年に大桑村全域に電灯



橋場発電所

供給を始めた。

伊那川電力は1929(昭和4)年、樺太工業からこれらの水力設備を買収、樺太工業の撤退後、改修して橋場発電所として運転を開始した。その後、1938(昭和13)年に大桑村への電灯供給事業は中部合同電気へ譲渡し、木曾電力は電力卸売会社となった。

#### (1-1) 木曾興業、中央製紙など大川系企業群・樺太工業について

日本の製紙王と言われた大川平三郎は、1906(明治39)年に中央製紙(株)、1908(明治41)年に木曾興業(株)を設立した。その後、中央製紙が木曾興業と合併し須原工場を木曾工場に改称した。1913(大正2)年、日本国内では針葉樹資源が次第に減少していく中で、事業の拡大を目指すべく樺太に進出し、樺太工業株式会社を設立した。樺太工業は1926

(大正15)年に中央製紙と合併し1928(昭和3)年に木曾工場を閉鎖した。

なお、大川平三郎については本誌2010(平成22)年8月号「製紙王・大川平三郎と電気事業」に掲載してあるので参照されたい。

#### (1-2) 中部合同電気について

中部合同電気株式会社は、1937(昭和12)年8月に設立され、岐阜県多治見市より長野県大桑村に至る中央線沿線にある次の7事業者(木曾発電株式会社、木曾電気株式会社、中津電気株式会社、矢作水力株式会社、東濃電化株式会社、妻木電気株式会社、東邦電力株式会社の多治見区域全体)が合併して翌年から営業を開始した会社である。

#### (2) 田光発電所(=第二発電所)

中央製紙が、1924(大正13)年に建設、出力は当初2,120kW、現在2,500kWで運転している。



田光発電所

#### (3) 相之沢発電所(=第三発電所)

木曾発電になってから1938(昭和13)年

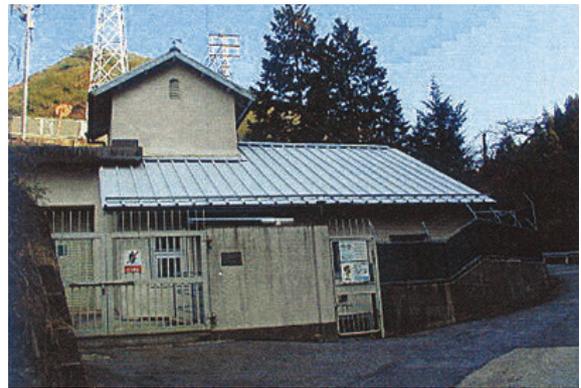


相之沢発電所

に建設した。当初の出力は6,100kW、現在6,200kWで運転している。

#### (4) 与川発電所(=第四発電所)

大同電力が工事用動力を得るために1917(大正6)年に建設した発電所であったが、その後運転を休止していた。信美電力がこれを譲り受け、改修したうえで1927(昭和2)年に営業送電を開始した。当初の出力は240kW、現在1,760kWで運転している。



与川発電所

#### (5) 妻籠発電所(=第五発電所)

信美電力が水利権を得ていた地点であるが、木曾発電になってから着工し1934(昭和9)年に営業送電を開始した。出力は2,800kWで運転している。



妻籠発電所

なお、各発電所の電力は、大同電力への供給を目的とするため長距離送電線は建設せず、大同電力賤母発電所構内に設置していた変電所に送電し供給した。五発電所の概要は次のとおりである。

## 発電所の概要

発電所名	出力(kW)	落差(m)	発電開始年月日
橋場発電所(第一発電所)	1,900	55.8	1929(昭和4)年2月14日
田光発電所(第二発電所)	2,500	198.7	1924(大正13)年12月17日
相之沢発電所(第三発電所)	6,200	243.8	1938(昭和13)年3月12日
与川発電所(第四発電所)	1,760	135.4	1927(昭和2)年1月19日
妻籠発電所(第五発電所)	2,800	182	1934(昭和9)年11月23日

## 石川栄次郎の生涯

石川栄次郎は1886(明治19)年に愛知県で生まれ、1910(明治43)年、名古屋高等工業学校を卒業した。

卒業後、逓信省発電水力調査局に入局し、初の全国的な水力資源調査である第一時包蔵水力調査に従事した。調査終了後の1913(大正3)年、水力調査局時代の上司、杉山栄に誘われて名古屋電灯株式会社入社、木曾川開発に本格的に取り組むため臨時建設部業務に従事した。その後、木曾電気製鉄―木曾電気興業―大同電力を経て、日本発送電―中部電力へと移籍した。このように所属する会社の名前は変わっても、石川は常に水力電源開発の

ダム建設に情熱を燃やし続け、大井、三浦、丸山、朝日、佐久間とその時々の中部地方を代表するダムを造り上げ、輝かしい足跡を残した。特に天竜川の佐久間発電所については、大正年間から大規模開発の適地だと確信し、中部電力副社長であった1952(昭和27)年に請われて初代佐久間発電所建設所長に就任した。このように中部地方各水系の調査、発電計画に従事してから50年、ダムの鬼と呼ばれるほど水力の電源開発一筋に生涯を奉げ、1959(昭和34)年に死去した。

なお、簡単な略歴は次のとおりである。

(寺澤 安正)

### 石川栄次郎の略歴

1886	明治19	愛知県で出生
1910	明治43	名古屋高等工業学校土木科卒業 逓信省発電水力調査局入局
1914	大正3	名古屋電灯株式会社入社
1921	大正10	大同電力株式会社入社
1928	昭和3	伊那川電力株式会社設立、取締役役に就任(兼務)
1932	昭和7	信美電力を合併し、木曾電力株式会社に商号変更
1937	昭和12	大同電力株式会社取締役工務部次長に就任
1939	昭和14	日本発送電株式会社入社
1946	昭和21	日本発送電理事、東海支店長に就任
1951	昭和26	中部電力取締役副社長に就任
1952	昭和27	電源開発株式会社佐久間建設所長に就任(兼任)
1953	昭和28	電源開発株式会社理事に就任 中部電力取締役に就任
1959	昭和34	逝去